

スイス留学記

Theodor Kocher Institute
University of Bern

西原 秀昭
(山口大学医学部附属病院神経内科)

グリエッサ!!

みなさま、何語かお分かりでしょうか？ 私は2017年4月からスイスのベルン大学、Theodor Kocher Institute に留学しています。スイスで使われるドイツ語で「こんにちは」という言葉ですが、全くもってドイツ語には聞こえず、地元の人たちもスイス人のドイツ語をスイスジャーマン、ドイツ人のドイツ語をハイジャーマンと呼んでいます。私が生活しているベルンはスイスの首都ですが、人口が10万人程度の小さい街です。ただし、旧市街の世界遺産を主とした観光地に訪れる人々で賑わっています。トラムやバスなどの公共交通網も発達しており、過ごしやすい都市です。ベルンはスイスの中央に位置しており、車で1～2時間でスイスの主たる都市に行くことができます。また、夏場は夜10時くらいまで日が沈まず、ヨーロッパで生活していることが実感できます。

日常生活は、物価の高さが想像以上でした。例えばマクドナルドのハンバーガーセットが1,500円以上、レストランで外食をすると1人3,000～5,000円もします。また、平日の19時以降、土曜日は17時以降、日曜日や祝日には駅を除くほとんどのお店が閉まっており、文化の違いを実感します。

ラボのメンバーはほとんどがスイス国外出身で、フランス、ドイツ、イタリア、ポルトガル、スペイン、トルコ、イランと国際色豊かな環境で仕事しています。頻繁に他のラボとコラボレーションを行なっていることが印象的で、私も去年はフランスのランスとスイスのローザンヌにそれぞれ1週間の研修に行き、細胞の扱いを学ぶことができました。ラボにも定期的に共同研究者が訪れ、技術交換を行なっています。

こちらでも様々な学会に参加する機会がありますが、学会で驚いたことは日本に比べ活躍している女性の数が圧倒的に多いということです。学会によっては参加者の半数が女性のこともあります。スイスでは職場との契約が%単位で決まっており、80%の契約で週に4日働く人や40%で週に2日のみ出勤してくる人もいます。日本に比べると多様な働き方が認められている点が、女性が活躍している一つの要因かもしれません。

日本と比べて働き方にも違いがあるように感じます。日本人は今でも“仕事が全て”の人が少なからずいると思いますが、こちらでは自分の時間・家族の時間を大切にし、仕事とプ

ライブートを上手く切り分けて生活している人が多いように感じます（私も家族と過ごす時間が増えました）。留学の経験は研究面での成長だけでなく、異なる文化や多様な価値観を学ぶことができ、今後の私の人生設計に大きな影響を与えてくれるものとなりそうです。

最後になりましたが、私が留学したいと現在のボスに問い合わせた時には、ポディションがなく、留学許可の条件が自分で資金を獲得することでした。上原記念生命科学財団のご支援無くしては留学を開始すらできませんでした。このような研究面だけでなく、家族にとっても、人生においても貴重な経験をさせていただいた上原記念生命科学財団の皆様から心から感謝申し上げます。

Cheers!!

(30. 4. 12受領)